

# 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【日進中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	次年度は朝の「スタサプday」実施要領の教室またはフロアごとの改善をはじめとしてiPad利用の環境を整え、家庭への持ち帰りを高め、使用状況を上げていく。そして、家庭学習の定着を向上させ、主体的な学習態度を育てる。特に、答えの丸暗記ではなく、「特色を理解する」「違いを理解する」、また、「現状を理解する」という観点からニュース等の社会報道に関心を持つことの指導も課題に対応するために必要な取組である。	
思考・判断・表現	言語活動の充実をはかるため、国語の思考・判断・表現の領域A「話すこと・聞くこと」を基礎に教科横断的に、また道徳や総合的な学習の時間を通じて「話し合い活動」「発表」の質を高めていく。そして、「どのように考え、どのように伝え、受けとめるか」という指導を通じて、「理由を考える」「他と関連付けて考える」「資料から考察する」「特徴を比較して考察する」「根拠を基に考える」という課題に適切できる能力を育む。次年度も引き続き、チャレンジスクールの学習アドバイザーの支援を活用し、学びに向かう雰囲気や地域の協力を得ながら醸成する。	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 「資料」「知識」をもとに他分野・教科の横断的学習への対応、選択式問題形式の伸展性をさらに向上させる。 <指導上の課題> 朝の「スタサプday」の確実な実施によるスタディサプリの活用推進を実現する。	⇒ 「スタサプday」の継続的な実施(週1回実施)と、タブレットの持ち帰り可能とすることにより、スタディサプリ・ドリルパーク等の反復学習や課題配信を活用し、基礎学力と家庭学習の定着を向上させる。【R7さいたま市学習状況調査「PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。」について、肯定的回答の割合が前年度を上回る】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 「知識」をもとに説明する力を向上させ、記述力を高める。 <指導上の課題> 「書くこと」「説明すること」を言語活動の充実により向上させる。	⇒ 全教科領域で「話し合い活動」を取り入れた授業の実施と、チャレンジスクールとの連携により、主体的・対話的で深い学びを推進する【通年】。また、道徳教育(心の教育)の充実および推進徹底を外部機関との連携により、「記述力」「説明すること」の機会教育を活用する。【話し合い活動(質問33)について、総合的な学習の時間での主体性(質問38)、学級活動(質問39・40)での話し合い活動での肯定的回答が前年度を上回る】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	「スタサプday」の継続的な実施は、整備進行中のタブレットの台数不足とWi-Fi接続の不安定な状況から全員で進めることはできなかった。今年度2月下旬にiPadへの入れ替えがあり、初期設定を進めていることから、ICT機器の使用状況は市学習状況調査の段階では1・3年生が市平均を下回った。
思考・判断・表現	A	今年度の「話し合い活動」の肯定的回答は「学級の生徒間」「総合的な学習の時間」「学級活動」において、前年度を上回り、90%以上を維持した。チャレンジスクールは51名(昨年度比較微増)の申し込み生徒のうち、約88%が全16回の年間を通して出席し、英・数を中心に学習習慣の定着向上と計画性を身に付けることを誓った。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語は出題数2問の選択式での正答率ではあるが、全国・県を上回り、言語に関する知識は一定数の実力が見られた。数学は60%以上の正答率で基礎の定着を示している。理科では特に小学校で学習した知識を基に関連付けて解釈する問題が全国・県を下回ったため、基礎学力の定着と活用について検討が必要である。	
思考・判断・表現	国語では「読むこと」の正答率がよい全国・県をさらに上回った。学校図書館に近い校舎配置を活かし、図書館の定期的な利用が学習効果として表れたと言える。数学の思考・判断・表現は前年度から飛躍したが、正答率は全国・県ともに記述式の問題と同様の40%前後であるため、記述を伴う実践の強化が必要である。質問52「数学の勉強は得意ですか」の肯定的回答が4割程度であることから、数学的思考力の充実を一層図っていきたい。理科は、実験結果の予想を選択する問題や、実験の様子に関連付けたり、実験の結果を分析して解釈したりする問題が全国・県を10ポイント前後上回り、そして質問68・69の「実験」に関する肯定的回答が極めて高いことから授業における「実験」の充実が反映されている。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語は1・2年生で市平均を上回り、特に1年生の領域「我が国の言語文化に関する事項」正答率+3ポイント以上、2年生では領域「言葉の特徴や使い方にに関する事項」正答率+3ポイント以上であった。数学は1・3年生で市平均を上回り、特に1年生の領域A「数と式」正答率+3ポイント以上であった。社会・理科は全学年市平均を上回り、特に2年生社会「世界と日本の地域構成」は2問であったが正答率+3ポイント以上、「1年生理科「生命」を柱とする領域、「粒子」を柱とする領域で+3ポイント以上、2年生理科「地球」を柱とする領域」は3ポイント以上の正答率であった。2年生の経年変化では国語「社会」において1年次調査結果より偏差値が向上している一方、理科は0.1ポイント減、数学では、特に「データの活用」の領域において-3ポイント以上で3年次への課題である。3年生は3回の全調査結果から教科すべて市平均得点率を上回った。	
思考・判断・表現	国語は2年生で市平均を上回り、特に「書くこと」の領域では3問中2問が+3ポイント以上であった。数学では1年生で市平均を上回り、「数と式」の領域では6問中5問が+2~3ポイント以上であった。社会は2年生の「世界の様々な地域」の領域、「歴史分野」の領域で市平均を上回った。理科は2年生で市平均を上回ったが、「粒子」を柱とする領域、「エネルギー」を柱とする領域、「地球」を柱とする領域において1問ずつ-3ポイント以上の設問があった。「グラフから読み取り、データを活用して表のデータを活用して計算で求める」「関連付けて考察する」「違いの特徴から考察する」という設問で、市平均正答率を下回っているため、答えを求める手順としての思考力向上を意識した取組の検討を要する。3年生は4教科において3回の全調査結果が市平均得点率を上回った。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	タブレットの活用が部分的には実施できているが、一人1台タブレットが修理等により整備できず、全生徒にいきわたっていない状況であることから現在整備進行中である。	変更なし
思考・判断・表現	B	道徳教育の充実、話し合い活動の定着、様々な場面でのゲストティーチャーによる講義を通じて思考の拡大を図っている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)